

# フィリピンの君が代

● 青木宏之

**も** う一七年も前のことであるが……。私は五〇歳を過ぎ、身体のあるこちに故障が目立ち始めたので武道の最前線から引退することにした。武道をやっているとどうしても無視できないものに「気」という問題がある。後ろからそっと忍び足で近づいて来る敵の「殺気」を察知して対応しなければならぬし、殺気をすっかり消しているあいての気配さえ読みとらなければならぬ。しかしそんな気のことを研究しているうちに「気と健康」、即ち病氣治療ということにたどり着いてしまった。

そこで前々から気になっていた韓国とフィリピンの心霊治療なるものに目を付け、早速フィリピンを訪れた。一〇〇人を超える心霊治療師にあって後、気功療法とも言うべき治療をする神父にあった。しかし彼は子どもの時に散々見聞きしていた日本兵の悪逆無道ぶりを覚えていて、日本人の私の身体を診るのに大きな抵抗があったようである。そうした話は各地の古老からも聞かされていた。

私は治療師たちを訪ねるときいつも段ボール箱に衣類などを詰めて手みやげに持って行っていたが、ある時この神父に今度何を持ってこようかと聞いた。すると彼は「衣類もお金も有り難いが今フィリピンで一番欲しいものは教育である」と答えた。これには私は少々ショックであった。そこで勉強をしたいのに貧困のため中学高校へ行けない子たちを進学させてやる運動をし始めたのである。私たちの父、祖父たちが残した負の遺産に対する私のささやかな戦後賠償のつもりもあった。はじめこの神父の教会の貧しい会員の子どもたち一二人を選び月謝、文具、バス代、制服代、少々のおやつ代などを支援することにした。日本円にしたらそう多額ではないが子どもたちは次第に増えていった。子どもたちの家を訪ねるとその貧困ぶりには想像を絶するものがあつた。

それから一一年も過ぎ、今では受給生は三〇〇人を超え、大学生も一〇人になった。前回奨学金授与式のさい、この神父が整列している学

生たちの前で何か言うと、全員が起立し右手を胸に当てた。ああフィリピン国歌斉唱だなと分かった。私も右手を胸に当てて敬意を表した。そしてタクトが振り下ろされるや彼らはなんと「君が代」を歌い始めたのである。私はもう本当にショックだった。後で学生たちに何処で君が代を習ったのか聞くと、神父から習ったという。私の胸の中には熱くたぎるものがあつた。そして五八年前この地につれてこられ戦死していった兄を偲びつつ、ここまで来るのに一〇年かかったなあ、と感無量であつた。



イラストレーション：栗岡奈美恵

あおきひろゆき／1936年横浜市生まれ。空手をととして、総合的な人間開発のための体技「新体道」を創始。新体道協会会長、国際新体道連盟(ISF)会長、書家としても活躍中。